



佐藤先生の絵

巻 小 学 校

発行所 西蒲原郡 巻町公民館
編集人 保刈郡司
印刷所 昭和時報社

先般町当局並びに町民各位の絶大な御理解と努力によつて、荒れ果てていた第二運動場が見違える様に改修美化され、学校では児童職員ともに大変喜び、感謝していました。ところが今回、佐藤吉五郎先生の御寄贈による先生の油絵が二点第二運動場の正面左右の壁に掲げられ、一層の品位と美しさを加える事になりました。学校としては、かねてから先生の絵を学校に掲げて児童の情操の教育の糧にしたいと念願していましたが、先生の母校愛と教育に対する深い御理解と、更にP.T.Aの方々の御盡力によつて、学校側の念願が今回実現しました事について先生はじめ御盡力下さされたP.T.Aの方々に深甚な敬意と感謝の気持ちを表する次第であります。

先生の今回御寄贈になられた絵は何れも五十号大の大作であります。一点は昭和十六年第二十八回の二科展に無鑑査出品された「草むら」という作品であり、もう一点は昭和十

七年第二十九回の二科展に同じく無鑑査出品された「麓」という作品であります。先生の絵について吾々素人には兎や角いう事は到底出来ませんが、吾々が先生の絵に接し、じつと見つめていく時、何か自分が絵の中に引きつけられていく感じがするのであります。豊富な色量と構図の深さは、幽玄な中にも安定した感情を誘い出さずにはおきません。しかも先生の絵はそれのみでなく、どの作品にも作家としての絵はその先生の良心的な真摯な態度が画面に滲み出ている様に思われます。特に学校に寄贈された作品は、昭和十六、十七年の作品であり、芸術家として自己の芸術の製作について社会的に極めて恵まれぬ時代であつたろうと思われまふ。又佐藤先生個人に上ろうとする契機を掴む希望と努力の時代であつたのではないでしようか。それだけに先生の努力と情熱が

寄贈された二点の作品の中に滲み出ているのを吾々ですら感じとる事が出来るのではないかと思われます。見つめる程引きつけられる絵の強さは、こうした環境の中にあつて描きださる先生の努力と真摯な製作態度によつて生まれたものと思われまふ。この様に立派な絵を吾々の学校に掲げる事の出来る事は教育的にも極めて大きな意義が考えられます。新教育に於ける教師の立場は、児童生徒を補導する事であるとよくいいます。補導するといふ事の中には、環境の整美といふ事が大変重要な意味を持ちます。児童を取りまく環境が美化されたといふその事、それだけでも子供達への教育的影響は見のがす事が出来ません。子供達は環境と交渉しつゝ、何時でも環境から何物かを掴みとろうと努力してきます。美しい環境の中に生活する時、子供達は自然と美しい心持ちになつてくる事が考えられます。特に品位ある芸術作品に接する時、単に鑑賞指導という狭い意味だけでなく、性格の形成という大きな教育的意義をもつと吾々は深く考えるのであります。こう考えて見る時に、先生の絵が先生の良心が長く巻小学校の児童教育に大切な役割を持つことを深く信じて、先生の御厚意に改めて敬意と感謝の意を表して筆をおきます。

巻町章募集

此の度巻町を表徴する徽章を作る事になり一般の皆さんより徽章図案を募集することになりましたので左記事項を御留意の上優秀作品を多数応募下さるよう御願ひ致します。

記

- 一、提出先 巻町役場庶務課
- 一、提出期限 三月二十五日
- 一、発表 三月三十一日
- 一、提出用紙 官製はがき
- 一、色 彩 三色以内
- 一、賞 金

- 一等 二、〇〇〇円 一名
 - 二等 一、〇〇〇円 一名
 - 三等 五〇〇円 三名
- 審査員 日報支局 八木 茲豊氏
二科会員 佐藤吉五郎氏
中学校教員 鈴木 重仁氏
公民館長 齋藤 順作氏
町会議長 小林十四三氏
町 長 水倉 新作氏

町會だより

二月十七日 教育委員会
二月十九日 産業委員会
二月二十一日 警察委員会
各委員会とも二十六年度予算について要求の内容を聴取し、予算町の参考資料について検討を加いた。

二月二十四日 厚生委員会
保育所の屋外遊戯場敷地の入手について、所有者との接衝経過の報告あり、買収可能の見透しがついたので全員協議会で承認してもらうことに決定。

二月二十六日 学校工事委員会
中学校の屋内運動場の竣工式を三月二十日に執行する事や、外壁や窓枠の色などを決定、雨樋の取付けを増工事とする事などを承認。

二月二十七日 消防委員会
東京都消防庁抵下げの自動車ポンプ購入について協議の上購入を承認し全員協議会に囀る事とした。

二月二十八日 町會本会議
水道使用条例の一部改正外二件を議決。

二月二十八日 全員協議会
中学敷地の補償料など未解決のものの特選委員会で解決出来た事の報告、前記保育所敷地、自動車ポンプ購入については各委員長から委員会に於ける審議の結果などの報告があつて満場一致承認。



日本の再軍備は是非か

(はがき回答)

日本の再軍備は是非か
この事については新聞紙上、ラジオを通じていろいろ論議されておられます。ことにマツカサ元帥の年頭の辭がこの問題によつていふ故に急速に新問題となり各報もそれぞれ立場からその態度を表明し街頭には再軍備実現及び反対の署名運動が相対立して行われていた。然し、かかる情勢のもとに私達はどの様な態度を保持すべきか御意見を伺ふことを願ひます。

日本の再軍備について

一、賛成 (理由)
二、反対 (理由)
三、どうでもよい
四、わからない

山田 惣三郎

星井 与平

田辺 秀一

大岩 昌子

一、賛成
二、反対

一、賛成
二、反対

古寺 妙

一、賛成
二、反対

一、賛成
二、反対

市川 清

一、賛成
二、反対

立場に置かれることを考え合せます。時私は日本の再軍備を必要と思ふ。

二、反対
上原 甲子郎

日本の民主化の徹底による戦争不介入を可能と信じていますから、あらゆる面から言つてこのようなことは全々考えられませんが、最悪の場合に予想もしなくてはならぬ原子爆弾の洗礼による「屍の街」をもう一度われわれが経験する虞を、私はもつていません。

一、賛成
星井 達雄

一、賛成
二、反対

一、賛成
二、反対

小笠原 市平

一、賛成
二、反対



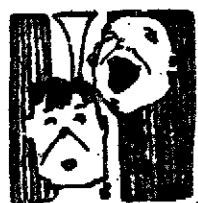
町議を選ぶに当りて

ばならぬと思ふ。何故ならば親の代から議員であつたからとて又息子も議員生活をせねばならぬといふ事もない。

謂はゆる新人と称する者でも卓越せる政治的手腕を識し実行力のある而も経済的に比較的豊かな眞に町の為になる人を選びたい。ここで敢て私が経済的……と云ふ事を述べたといふのは私生活にある程度恵まれなければ眞に町政に對し粉骨砕身奉公が難しいのではないかと愚ふからである。

次に議員の數と云ふ問題が、今巷間云々されて居るが、先般の公民館報のバガキ回答欄をみると現議員定數を減する事に賛成者が圧倒的に多數のやうであるが私はいささかこれと見解を異にするものである。議員を少数にすれば町民の負担が軽くなる様に一部の人と思ふかもしれぬがこの際若干の議員數を減じたとしても全町財政の面に及ぼす影響は微々たるものである。

故に私は優秀なる逸材を多く選出し吾が町に山積せる重大案件を活潑且つ慎重に審議し町政運用の妙を得たいと思ふ。又、區の數から推して現在數の議員が適當ではなからうか。



やみ汁

お父さん「カリキュラムと言ふ事は何んに効くの。」「判からんのがあつたらみんな先生様にききなさい」

町章の賞金二千円あげます。自動車ポンプ買ひませう。保育所の屋外運動場ひろげます。その他置土産にほしいものありませんか。

一時間厳守で明るい集会だ」から公民館の集りは活気がなくなつてしまつて居るのださうです。

時間厳守で明るい集会

開会は何分おくれたか (三月)

巻野球クラブを訪ねて

ひと日記者は保刈氏の依頼を受け巻野球クラブを訪れた。そのメモを拾つてみよう……

弥生も半ばともなればスポーツ界も活氣を呈して来た。中でもスポーツ界のナンバーワン野球部に於てはプロリーグの開幕を目前に控え且つ又渡布軍の連戦連勝を紙上に知るに及んでその土氣いやが上にも盛、既に本間孝一、本間秀雄両氏の愛の翼の下官井監督のちみつたる技術指導計画もなり構成メンバーも旧來にない充実をみせている。

記者はこのトリオの下必ずや四年前のコンドル黄金時代を再現するものと信じ春泥も苦にせず晴々とした氣持で引揚げた。

本間 孝一氏談

「本年は特に基礎練習と野球知識を部員に徹底させ、眞の野球人の野球にしあげたい。」

本間 秀雄氏談

「スポーツによらず何れもそうでしょうがチームワークに重点をおき、短時間でもよいから内容豊富な野球にしあげたい全員の時間厳守を特に強調。」

富井監督談

「今迄の欠陥は野球知識の不安内にあつた。しかし何よりも心強いのは若い人のチームであることです。皆すこいフアイトに燃えているので今年こそ皆さんの期待に添ひ得ると思

います。」

ちなみに野球部の二十六年度行事計画を添ひて筆をおく。

- 四月上旬 県下選抜トップボール優勝大会
- 五月中旬 野球大会
- 六月初旬 町内優勝野球大会
- 七月下旬 県下選抜中学優勝野球大会
- 八月下旬 国体下越予選野球大会
- 九月中旬 県選抜優勝野球大会
- 十月中旬 全日本軟式野球連盟予選大会
- 町内優勝野球大会
- 国体予選大会

募集

論 説
町民のこえ(ろばた欄)

短歌 俳句
詩 其の他

いづれも原稿用紙使用のこと
原稿用紙は公民館に用意してあります。宛先は 公民館弘報部

短信 (婦人会員の皆様へ)

先日御手許に差上げましたプリントによつて昨年度の事業や経費のことを報告しましたがそれと同時に本年度の御希望を集計しましたのでお知らせします。

やつて貰いたい仕事
講習会——料理、あみもの、縫製、裁縫、英語、教育、レクリエーション——映画、見学

- 成人講座 (二十五日)
- 国民保健協賛会 (十三日)
- 公民館運営審議会 (十五日)
- 教育委員会 (十九日)
- 警察委員会 (二十一日)
- 町議 会 (二十八日)

たより欄

二月二十四日午後八時より
かるた大会 農協楼上

参加者——四十名

- 一等 中学生 坪田 昭彦
- 二等 中学生 鈴木 百代
- 三等 中学生 鈴木 百代
- 四等 中学生 鈴木 百代
- 五等 中学生 鈴木 百代
- 六等 中学生 鈴木 百代
- 七等 中学生 鈴木 百代
- 八等 中学生 鈴木 百代
- 九等 中学生 鈴木 百代
- 十等 中学生 鈴木 百代

二月二十五日午後八時より
ものをきく会 公民館

新潟日報社主筆 松井 敬氏

「最近の国会の動き」
二月二十七日午前十時
西蒲原郡公民館連絡協議会
巻公民館で

三月三日
討論会 巻公民館
巻町議会の議員定數の問題
講師 (イロハ順)
高田 弥雄 司氏
倉品 克一 郎氏
齋藤 作次氏
白崎 一 二氏
保 刈 主 事

三月予定行事
普通科 (世界史) 毎週木曜日
巻小学校 本多 先生
農業科 (華道、農業一観)
毎週月、金曜日 (農業会)

過去六ヶ月間にわたり皆様方の御協力により続けられて来ました公民館

主催定期講座も三月の末をもつて英語科のみを閉講致すことが出来ました。雨の日に風の日に御出席を戴きました事を感謝いたしております。

尙四月(二十六年度)より行なう講座についていると考えておられます。新年度よりは是非やつてほしいもの、又講座の運営技術などについて御希望御意見がありましたら御聞せ願われれば幸いです。

青年

皆さんすでに御存知かと思いますが、来る二十五日県連合青年団都市対抗球技大会が今建設を速がれて居る巻町立中学校の屋内運動場を中心として小学校、県立高校を会場に県下各都市の精鋭によつて蹴球、卓球、排球と其の覇を競うことになりました。

各都市も粒よりの選手を出しての戦であり、スポーツ日本の進出が大きく期待され、インドのニューデリーに於けるアジア大会、プロ野球の渡米と更らに各地に活躍する日本選手の実況を知るに及んで、県下各都市の選手ともその土氣いやが上にも盛な折りとして其の妙技に開志に激烈な争奪が演じられるものと思われ、巻町青年団としては昭和二十五年度の最終行事であり又嘗て行われた事のない一大行事でありますので皆様方の御協力をお願い致さねばならぬと思ふのであります。

大会当日は二十九日の巻市日でもあり、他都市並びに近郷からの人出も予想されますので皆さん方の御協力により間違なく本大会が終了されたいことを念願致しております。

◎ 巻町文庫

圖書閱覽規定!!

一、本館の圖書閱覽日は次の通りです

(1) 毎日午後一時より午後五時まで
(日曜日は休館)

(2) 毎週日曜、水曜日は夜間の貸出も行います

五月(十月七、三〇、三〇分
夜十一月(四月七、三〇、三〇分
但し祝日年末年始(新旧)は休
みます。

二、圖書の閱覽を館外館内に分けま
す。

(1) 館外の閱覽は一人二冊一週間に
内とします。

但し引続き閱覽しようとする
きは再手続を必要とします。

(2) 禁帯出の圖書は館外の閱覽は出
来ません。

三、閱覽希望者は閱覽票に正しく記
入し係の人に御渡し下さい。

四、圖書を失くし破損した場合は弁
償してもらふこともありま

五、圖書を期限内に返さなかつた場
合催促手数料をいただくこと
もあります。

六、館内の秩序を乱し係員の注意に
従わざる人は入館を禁ずること
もあります。

◎ 新入庫

自由学校 獅子 文六

佐々木小次郎(上中下巻)

村上 元三

讀書隨想

珠玉のような美しさと價值

波多野勤子「少年期」下

女性には本來娘性と母性とがあつて妻性は無い。
妻性は必要によつて生じたもので、両者の混り合つたものだ。

—— 善 迅

健康で聰明な母と子があります。
そして幸福なことにこの母はずぐ
た児童心理学者でした。母は子にノ
ートを与えて、それからこの二人の
間に手紙の往復がはじまりました。

それは一九四四年のことです。い
四年間続けられ、それを一冊にまと
めたものがこの本です。

ここで二人の間にどのようなこと
が語られたでしょう。「母と別れて」
「正しい生活をもとめて」「垣間み
る大人の社会」「悲劇へのあこがれ」
「八月十五日」「自我と恋愛」「入學
試験」これらの見出しからも知れる
ようにこの少年の成長に伴つて起る
あらゆる問題が、二人の間に問われ
かつ答えられています。一步一步成
長し、次ぎ次ぎに脱皮していく子、
それをあたたかいまなさしでじつと
見守つてゐる母、正に一幅の名画と
いえましよう。そして母も子も相互
的に學んでゐる姿は、「親は子に教
育される義務がある」(寺田實彦)
というドギツイ箴言的な言葉も少し
の誇張もなく感じられるかのよう
です。

迂余曲折のある成長の過程、物事
は総べて過程こそ最も大切なのでは
ないでしようか。結果的なものだけ
いかに美しく語られてもそれは数式
のない物理学書みたいなもので、そ

こには具体的性も發展性もみられ
ない。
その意味でこの本の持つ貴重さも
この点に置くべきと思われま

話すこと。これが作文と会話の極意
とか聞いています。この会話調で書
かれたなんの飾りもない母子の文章
の美しさは無類です。たとえば、映
画「白鳥の死」を観てきた少年が母
に、それを叙景や心理描写をまじえ
ながら詳しく語つてゐるのですが、
その観察力・批判力もさることな
がら、感情をいきいきと伝える描写
力には驚くべきものがあります。

私はこの心理学書・教育学書・文
学書の三つを兼ね備えてゐる貴重な
本を一人でも多くの方に無条件に
いやたつた一つ条件があります。
読んでいただくたい。特にこれから
家庭を建設されんとする方々に。
ここに注意しておきたいことがあ
ります。無意識的にでしようが
この無意識ということに注意!
われは「知識階級なり」という選民
意識がこの家庭の雰囲気にならうと
強く感じとられること。これは見の
がしがたいことだと思ひます。でも
これは読者が各自の立脚点から反省
的に批判的に読むべきことはいくら
でもありません。

(上原甲子郎)

館の木の前から野舎と門の扉か
なにかと思はれる板が出たことがあ
る。野舎はうちにあつて、そこらへ
んにごろごろしてゐたが、板の方は
西山庄左工門の菩提寺とゆうので、
妙光寺さまが、もつて行つて、たし
か花台になさつたはずだ。今でもあ
るだらう。(談吉川嘉兵衛文齋藤)

車場とゆうのは、巻と葉萱場の間
に、もひとつさうゆう部落があつて
その大屋さまから、まつすぐ湯の
方へ行く道に、その名前が残つたわ
けだ。

船場とゆうのは、昔湯から館まで
堀があつて、舟で館まで来られたと
ゆう。さういえば、館の木から湯ま
で、道にそつて五間幅位のところ、
昔から稲の出来が、はつきりわか
りよかつた。その堀を埋めた跡であ
らうと思はれる。

(談久保田寅平 文齋藤)

活躍する婦人団体
みのり会を訪ねて
「農業新潟」第五卷第二号
昭和二十六年一月一八頁
訪ねる記
西蒲原地区警察署
巻町警察署
「護光」第六卷第二号
昭和二十六年二月四八頁

抜き書聞き書覚え書

館の木の前から野舎と門の扉か
なにかと思はれる板が出たことがあ
る。野舎はうちにあつて、そこらへ
んにごろごろしてゐたが、板の方は
西山庄左工門の菩提寺とゆうので、
妙光寺さまが、もつて行つて、たし
か花台になさつたはずだ。今でもあ
るだらう。(談吉川嘉兵衛文齋藤)

車場とゆうのは、巻と葉萱場の間
に、もひとつさうゆう部落があつて
その大屋さまから、まつすぐ湯の
方へ行く道に、その名前が残つたわ
けだ。

船場とゆうのは、昔湯から館まで
堀があつて、舟で館まで来られたと
ゆう。さういえば、館の木から湯ま
で、道にそつて五間幅位のところ、
昔から稲の出来が、はつきりわか
りよかつた。その堀を埋めた跡であ
らうと思はれる。

(談久保田寅平 文齋藤)

活躍する婦人団体
みのり会を訪ねて
「農業新潟」第五卷第二号
昭和二十六年一月一八頁
訪ねる記
西蒲原地区警察署
巻町警察署
「護光」第六卷第二号
昭和二十六年二月四八頁

三月一日 みのり会臨時総会
場所 農業協同組合楼上

農家だより
三月一日 みのり会臨時総会
場所 農業協同組合楼上

議題

一、会計報告
二、会費徴収の件
三、其の他について
尚總會終了後直ちに例年の予定行事
の一つである、レクリエーション大
会を常に御指導、御協力を願つて
る方々の謝恩と併せて野立ち前の
安を兼ねて、晝夜二回に亘り會員持
ち寄りのかくし芸で開催した。女人
顔負けというお世評の好評で盛會の
裡に散会した。

三月三日四日 両日
県農林部改良課の主催で、クラブ運
営、増収その他の体験発表会が加茂
経営伝習農場に於て開催された。
クラブ運営について演題で、県下二
十四名の登壇者中の紅一点、当町み
のり会の長谷川キヨ子さんが堂々と
第九位の栄冠を克ら得た事は、わが
子のみによつて運當されている、わ
がみのり会の誇りである。

三月の農業講座 農協
毎週二回月曜、金曜日
夜七時半から九時半
月曜日 農業技術
金曜日 生花

尚本年の事業計画は左の通り
一月(三月) 農業講座
三月上旬 レクリエーション大会
三月中旬 農業研究会
四月上旬 春の行楽
四月中旬 生活改善講座
五月上旬 保健衛生講座
六月中旬 座談会
(水稲植付後の管理)

七月下旬 討論会
八月上旬 定例総会
九月上旬 農事研究会
十一月中旬 講話会
十一月下旬 敬老会
十二月下旬 修養講座(反省会)
其の他必要なる事業を計画す。